

第11回太平洋学術会議

The Eleventh Pacific Science Congress
 August 22 - September 3 1966
 UNIVERSITY OF TOKYO

松井 寛・徳永 重元・佐藤 良昭

1) 目的・沿革

太平洋学術会議(Pacific Science Congress)は次に掲げる目的で太平洋沿岸諸国を中心に設立された太平洋学術協会(Pacific Science Association)が1920年にホノルルで第1回の会議を開催し以来ほぼ4年ごとに各国持回りで開催されてきました。

第1回	1920	ホノルル	ハワイ
第2回	1923	メルボルン・シドニー	オーストラリア
第3回	1926	東京	日本
第4回	1929	バタビア・バンドン	インドネシア
第5回	1933	ビクトリア・バンクーバー	カナダ
第6回	1939	パークレー・サンフランシスコ	アメリカ
第7回	1949	オークランド・クリストチャーチ	ニュージーランド
第8回	1953	ケボン	フィリピン
第9回	1957	バンコク	タイ
第10回	1961	ホノルル	アメリカ
第11回	1966	東京	日本
第12回	1971	未定	オーストラリア

目的 (憲章による)

(1)太平洋地域に関する科学問題 とくに太平洋地域

区 分	実 際 数						見 込 数			
	外 国		国 内		外国・国内計		総計	外国	国内	総計
	本人	同伴者	本人	同伴者	本人	同伴者				
特別招待者 名誉会員等	13	7	25	5	38	12	50	30	50	80
気 象	59	18	141	4	200	20	222	90	170	260
海 洋	125	25	213	5	338	30	368	165	235	400
地球物理	101	28	251	5	352	33	385	150	300	450
地 質	127	19	319	5	446	24	470	150	400	550
生 物	228	62	311	8	539	70	609	320	350	670
農 学	242	46	965	4	1207	50	1257	260	1040	1300
水 産	102	13	336	19	438	32	470	150	400	550
医 学	284	44	515	6	799	50	849	350	600	950
社 会	80	22	71	6	151	28	179	130	100	230
人 類	146	32	113	2	259	34	293	200	200	400
地 理	103	17	293	4	396	21	417	150	350	500
学術情報 博 物 館	47	12	82	1	129	13	142	60	140	200
計	1657	345	3635	74	5292	419	5711	2205	4335	6540

註・出席者の正確な数は目下集計中である

出席予定申込状到着数

の人々の繁栄と幸福に寄与するような問題の研究を相協力して提案し 推進する。

(2)すべての太平洋諸国の科学者の同胞感を深めることにより太平洋の人々との間の平和のきずなを強める。

2) 準 備

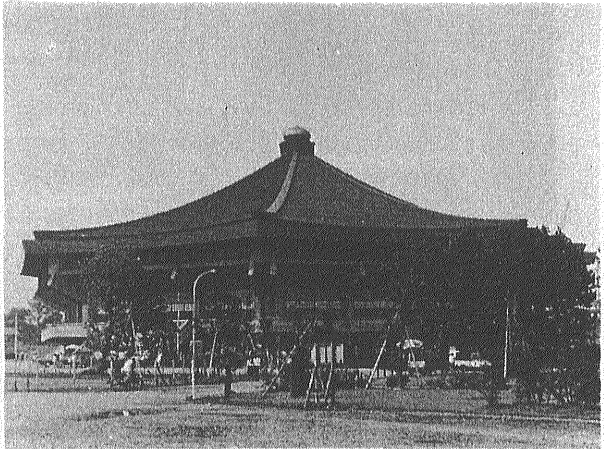
会議をすべての出席者に満足されるよう運営するために日本学術会議はつぎのような組織委員会を設置しました。 広大な科学の分野がこの会議のなかに含まれるので 組織委員会は中央事務局と12の部門 (Section) から構成されました。

中央事務局

委員長 朝永振一郎 日本学術会議会長 東京教育大学教授
 総務幹事 榎山義夫 東大教授

部 門

- 第1部門(気象) 委員長 畠山久尚 前気象庁長官
 幹事 吉武素二 気象庁観測部長
- 第2部門(海洋) 委員長 新野 弘 東京水産大学教授
 幹事 吉田耕造 東大教授
- 第3部門(地球物理) 委員長 高橋竜太郎 東大名与教授
 幹事 坪川家恒 東大地震研究所教授
- 第4部門(地質) 委員長 渡辺武男 東大教授
 幹事 高井冬二 東大教授
- 第5部門(生物) 委員長 原 寛 東大教授
 幹事 波部忠重 国立科学博物館 文部技官
- 第6部門(農学) 委員長 越智勇一 日本学術会議第6部長
 幹事 大越 伸 東大教授
- 第7部門(水産) 委員長 岡田弥一郎 東海大学水産研究所 所長



開会式の行なわれた日本武道館

幹事	黒沼勝造	東京水産大学教授
第8部門(医学)委員長	樋口一成	日本学術会議第7部長
幹事	佐々学	東大伝研教授
第9部門(社会)委員長	石津照璽	日本学術会議第1部長
幹事	館 稔	厚生省人口問題研究所所長
第10部門(人類)委員長	八幡一郎	東京教育大学教授
幹事	三根谷 徹	東大助教授
第11部門(地理)委員長	木内信蔵	東大教授
幹事	矢沢大二	東京都立大教授
第12部門(学術情報・博物館)委員長	大塚明郎	
	日本科学技術振興財団科学技術館長	
幹事	鶴田総一郎	自然教育園次長

これらの方々に加えるに 45名の学識経験者をもって中央組織委員会がつくられました。そのなかには 地質調査所長 佐藤光之助 地質学研究連絡委員会委員長 立見辰雄 古生物学研究連絡委員会委員長 小林貞一の諸氏が加わっています。

3) 組 織

今回の会議の名誉役員は次のとおりです。

1. 名 誉 役 員

Patron	名誉総裁	皇太子殿下
Honorary President	名誉会長	内閣総理大臣
Honorary Vice President	名誉副会長	総理府総務長官 東京都知事 東大総長その他
Honorary Member	名誉会員	第3回汎太平洋学術会議の出席者

地球物理学では 松沢武雄 那須信治 中村左衛門太郎 八木秀次 宇田新太郎の諸氏

地質学では 坂本峻雄 矢部長克 植村癸巳男 赤木健 渡辺万治郎 坪井誠太郎 石井清彦 牧野孝三郎 貴志敏雄 木下亀城 松浦二郎 柴田雄次 槇山次郎 半沢正四郎の諸氏

2. 組 織 委 員 会 すでに述べました

3. 会 員

第11回会議の会員(Membership of the Congress)には太平洋学術協会の憲章および細則にしたがってつぎのような種類があります。

i) 正式代表 Official Delegates and Representatives

太平洋学術協会の参加国の代表機関の代表で 国によって数が定められており 総会で投票する場合はあれば投票権をもちます。各国首席代表のうち10~15名で評議会(Council)をつくり 憲章の修正 決議 次期会議などの重要事項を決定します。

憲章にしたがって 会議の18ヵ月前の1965年2月に日本が招待した国は次のとおりです。

加 盟 国

アメリカ領サモア アルゼンチン オーストラリア
ブルネイ カンボジア カナダ チリ コロンビア
クック諸島 コスタリカ エクアドル エルサルバドル
フィジー フランス フランス領ポリネシア グラム
ガテマラ ハワイ ホンジュラス ホンコン インドネシア
日本 韓国 ラオス マカオ マレーシア メキシコ
ニューカレドニアと属領 ニュージーランド
ニカラガ パナマ ペルー フィリピン ポルトガル
ポルトガル領チモール 中華民国 琉球 シンガポール
タイ ソ連 英連邦と北アイルランド 米国 太平洋信託統治領
南ベトナム 西太平洋保護領 西サモア
(46ヵ国)

名 誉 加 盟 国

ビルマ セイロン デンマーク インド オランダ
ノルウェー スウェーデン (7ヵ国)

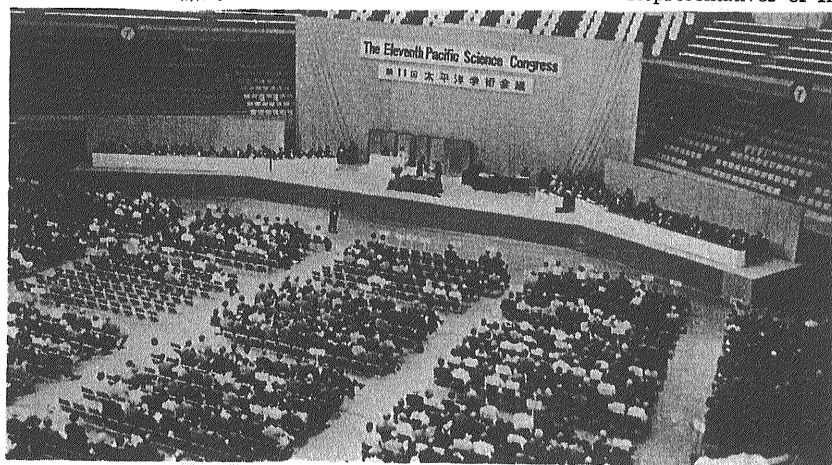
国際連合 国際学術機関 国際学会代表

Representatives of International Organizations

以上いずれも人選はその国その機関で行なわれ 旅費もその国 その機関で負担することになっています。

ii) 招待論文発表者 Guests of Symposium

シンポジウムの Convener(召集者)が行なった人選にしたがって 会長が招待する学者ですが 第11回会議では60のシンポジウムに



開 会 式(日本武道館)

ついで1,000名をこえています。

iii) 参加会員 Participants

- a. 論文発表申込者 Contributors
- b. 一般会員 Auditors

4) 会議日程

最初に述べたこの会議の2つのおもな目的のうち (1) を実現するために 組織委員会は60のシンポジウムを計画したほか とくにコンGRESSシンポジウムと呼んで2つの大きな論題を選びました。

- No. 1 太平洋諸地域での人口増加と栄養食糧の問題
- No. 2 空 水 地域の公害問題

また(2)の目的のためには42の部会 (Divisional Meeting) を決めました。

会議日程は次のとおりです。

月日	曜	午前	午後
8月21日	日		評 議 員 会
22	月	開 会 式	常 置 委 員 会
23	火	シンポジウム	コンGRESSシンポジウム
24	水	"	"
25	木	"	"
26	金	"	"
27	土	"	評議員会 見学旅行
28	日	見学旅行	見学旅行
29	月	部 会	常 置 委 員 会
30	火	"	地質調査所見学
31	水	"	研究所見学
9月1日	木	"	評 議 員 会
2	金	"	研 究 所 見 学
3	土	総 会	
4	日	スペシャル・シンポジウム	コンGRESS・ツアー
5	月	"	"
6	火	"	"
7	水	"	"
8	木	"	(現地解散)

第1週 (8月22日～8月27日)

- ① 会議日程に示すように 8月22日午前に開会式を行ない 23日から27日までの5日間 東京大学の

28の講義室(150～600名づつの席があります)で60のシンポジウムが行なわれましたが その題と召集者の名は第1表のとおりです。

- ② 1つのシンポジウムに 召集者が1名置かれ召集者と来客のうちから 司会者をえらび これを補佐します。 司会者はその会議の進行に一切の権威をもっています。

第2週 (8月29日～9月3日)

- ① 組織委員会の部門別にしたがって 部会を前週と同じ東京大学の28会場で 5日間続けて行ないました。 その部会名 組織者は第2表のとおりです。
- ② 1つの部会に組織者が1名づつ置かれ 論文の採否 聴衆の決定に最終的な権限をもち かつ外国人来客のうちから司会者をえらび 会長に推せんし これを会場において補佐しました。

第3週 (9月4日～9月10日)

第3週は 会議の主体は東京以外の地域に移りました。

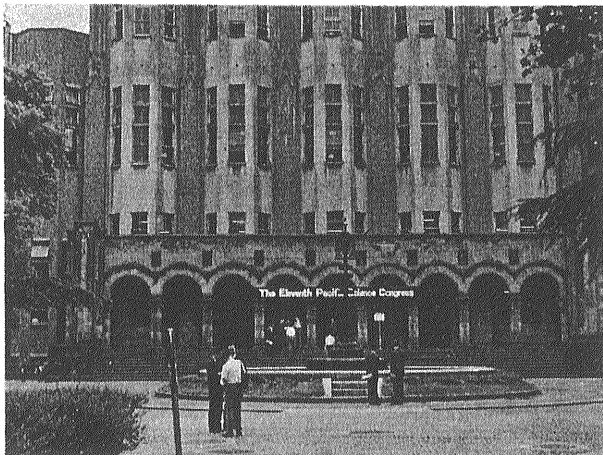
- ① コンGRESS・ツアー

太平洋学術会議に関係のある科学的な施設を訪ねたり 野外の調査をすることを目的とした旅行が 6種類計画されました。

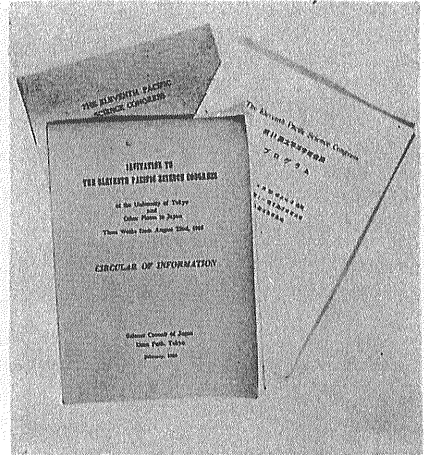
- 1. 北海道 9月4日～9月8日
- 2. 東北 9月4日～9月8日
- 3. 中部 9月4日～9月8日
- 4. 近畿 9月5日～9月9日
- 5. 中国・四国 9月4日～9月8日
- 6. 九州 9月4日～9月8日

常置委員会

太平洋学術協会が 会議と会議との間に各専門分野の仕事をする委員会として 常置委員会(Standing Committee)があります。 会議の期間中に 2, 3回会合があり そのうちには Standing Committee Member として 司会者から任命された人だけの特別委員会(Closed meeting) と その専門の人ならば誰でも参加してよい場



太平洋学術会議の本部(東京大学中央図書館)



大会前に配布された予告類

合との2つがあります。前者は次期司会者の人選 決議事項の決定などで 後者は各地域に共通の問題や 決議事項の提案などが行なわれます。いずれも論文発表のない事務的な会議です。

Concurrent Meeting

いつも太平洋学術には大勢の参加者が集まりますのでこの機会を利用して いろいろな国際会議が 太平洋学術会議とは別の機関の主催で しかし その前後または期間中に行なわれました。これを Concurrent Meeting といっています。

その他の催し

いろいろの展示 特別講演 科学映画などが 会議出席者のために用意され また テレビその他にも利用できる一般講演も考えられました。

参加者の同伴夫人のために 婦人向の催しが8月23日から26日までの4日間行なわれました。

第1表 第11回太平洋学術会議シンポジウム題目

- 1 水中における生物学的ならびに化学的物質代謝(基礎生産および2次生産を含む) 菅原 健 名大(名誉)教授
- 2 太平洋の海と大気 海洋資源の変化と予察
宇田 道隆 東京水産大教授
- 3 太平洋の海洋循環(海洋循環論の数値的方法とその太平洋への適用)吉田耕造 東大(理)教授
- 4 太平洋地域の動植物の進化 分布および移動
津山 尙 お茶の水女子大(理)教授
- 5 マグロおよびサメ 中村広司 宝幸水産(株)顧問
- 6 フィラリア病 佐々 学 東大(伝染研)教授
- 7 太平洋地域における都市発展の戦後の傾向
木内信蔵 東大(教養)教授
- 8 土地分類 渡辺 光 お茶の水女子大教授
- 9 太平洋における先史文化 八幡一郎 東京教育大(文)教授
- 10 国際地球内部開発計画 和達清夫 国立防災科学技術センター所長
- 11 太平洋地域の大気循環 正野重方 東大(理)教授

- 12 太平洋地域における雲の物理学 磯野謙治 名大(理)教授
- 13 太平洋地域における雪と氷の問題 吉田順五 北大(低温科学研究所所長)
- 14 気象衛星の利用 山本義一 東北大(理)教授
- 15 上層大気の物理学 北岡竜海 気象庁通信参事官
- 16 農業気象 井上栄一 農技研 物理第2研究室長
- 17 熱帯性低気圧 荒川秀俊 福岡管区気象台長
- 18 津波と高潮 高橋竜太郎 中央大学(理工)教授
- 19 太平洋地域における鮮新世および鮮新世以後の海面変化と地殻変動 池辺展生 大阪市大(理)教授
- 20 太平洋海域における化学元素および同位体(有機物質を含む) 北野 康 名大(理)教授
- 21 太平洋の深海生物 堆積物と深海水 新野 弘 東京水産大教授
- 22 太平洋に関連しての南極研究 永田 武 東大(理)教授
- 23 環太平洋地域における鉱床の生成区と生成期 渡辺武男 東大(理)教授
- 24 環太平洋造山運動の時代と性質 松本達郎 九大(理)教授
- 25 太平洋地域の第三系の対比と気候変化 浅野 清 東北大(理)教授
- 26 太平洋地域の陸上生態系の物質代謝と生物生産 門司正三 東大(理)教授
- 27 太平洋の火山地域の生物群集 細川隆英 九大(理)教授
- 28 太平洋地域の天敵 安松京三 九大(農)教授
- 29 太平洋地域の生物発光 羽根田弥太 横須賀市立博物館長
- 30 太平洋地域の花粉学 神保忠男 東北大(名誉)教授
- 31 太平洋地域における国立公園および自然保護地の管理に関する理論的實際的諸問題 田村 剛 自然保護協会理事長
- 32 太平洋地域の植物の病害 明日山秀文 東大(農)教授
- 33 太平洋地域の人畜共通伝染病 田島嘉雄 東大(伝研)教授
- 34 アイソトープおよび放射線の作物品種改良ならびに土壤肥料研究への利用 西垣 普 農技研
- 35 太平洋地域における池中養魚技術の進歩 中村中六 淡水区水産研究所所長
- 36 海藻の生物学と増殖問題 新崎盛敏 東大(農)教授
- 37 人造湖の魚類およびその他の生物の生産に関する諸問題 津田松苗 奈良女子大(理)教授
- 38 アルボウイルス病 媒介動物とリザーボワー 北見正見 予研ウイルスリケッチャ研究部長
- 39 コレラ病 牛場大蔵 慶大(医)教授
- 40 熱帯皮膚病 伊藤賢祐 岐阜大(医)教授
- 41 太平洋地域の植物の探査 山下孝介 京大(教養)教授
- 42 食中毒 有本邦太郎 国立栄養研究所顧問
- 43 蠕虫症 横川宗雄 千葉大(医)教授
- 44 殺虫剤 吉川秀男 阪大(医)教授
- 45 遺伝医学 とくに太平洋地域における血液型と皮紋(指紋 掌紋 足紋)について
- 46 薬用および有毒植物 柴田承二 東大(薬)教授
- 47 有害有毒動物 沢井芳男 東大(伝研)助教授
- 48 日本近代化の社会および文化的基礎 岡田 謙 東教大(文)教授
- 49 西南太平洋海域の諸民族(沖縄島島を含む) 松本信広 慶大(文)教授
- 50 ニューギニアの自然と人文 浅井恵倫 南山大学教授
- 51 太平洋地域における陸水問題(とくに環境要因に関連して) 菅原 健 名大(名誉)教授
- 52 北太平洋沿岸居住の諸民族 服部四郎 東大(文)教授



講演会場の入口(東京大学正門)

- 53 水稻の登熟に関する諸問題 山田 登 農技研 生理第1科長
- 54 農村地域の近代化 上野福男 農技研 土地利用研究室長
- 55 魚類回遊の生理学的問題(血液 内分泌 感覚) 川本信之 日本(農獣)教授
- 56 離島の生態系 沼田 真 千葉大(文理)教授
- 57 太平洋地域の土地自然の形成 中野尊正 都立大(理)教授
- 58 データ・センターについて 新崎盛敏 東大(農)教授
- 59 太平洋地域の気候 関口 武 東教大(理)助教授
- 60 海洋測器機 川瀬二郎 気象庁海洋気象部長

XI部門(地理)

- 1 地 形 町田 貞 東京教育大(理)教授
- 2 気 候 浅井辰郎 法政大(文)教授
- 3 都 市 山鹿誠次 東京学芸大助教授
- 4 工 業 化 松井武敏 名大(文)教授
- 5 農村の近代化 竹内常行 早大(教育)教授
- 6 地 誌 渡辺 操 明大(文)教授

XII部門(情報・博物館)

- 1 科学情報 大塚明郎 科学技術館長
- 2 博物館 鶴田総一郎 自然教育園次長

第2表 第11回太平洋学術会議 部会区分

I部門(気象)

- 1 モンスーン気象 畠山久尙 前気象庁長官
- 2 他の気象関係論文 畠山久尙 前気象庁長官

II部門(海洋)

- 1 海洋物理 梶浦欣二郎 東大(震研)助教授
- 2 海洋生物・化学 堀部純男 東大(海洋研)教授

III部門(地球物理)

- 1 測 地 坪川家恒 東大(震研)教授
- 2 地 震 荻原尊礼 東大(震研)教授
- 3 地 磁 気 力武常次 東大(震研)教授
- 4 火 山 水上 武 東大(震研)教授
- 5 地 熱 上田誠也 東大(理)助教授
- 6 地球化学 本島公司 地調地球化学課長

IV部門(地質)

- 1 地 質 湊 正雄 北大(理)教授

V部門(生物)

- 1 植 物 津山 尙 お茶の水女子大教授
- 2 動 物 波部忠重 科学博物館技官
- 3 動植物生態 門司正三 東大(理)教授

VI部門(農学)

- 1 畜産 獣医 内藤元男 東大(農)教授
- 2 作物園芸 杉山直儀 東大(農)教授
- 3 自然保護 下泉重吉 東教大(名誉)教授
- 4 林学 林産 荻原貞夫 東大(農)教授
- 5 植物保護 石倉秀次 農水会議連絡課長
- 6 養 蚕 横山忠雄 蚕糸科研嘱託
- 7 土壤 植物栄養 石沢修一 農技研

VII部門(水産)

- 1 養 殖 大村秀雄 鯨類研究所長
- 2 陸 水 岡田弥一郎 東海大水産研所長

VIII部門(医学)

- 1 栄 養 有本邦太郎 国立栄養研顧問
- 2 公衆衛生 吉岡博人 東京女子医科大学長
- 3 伝 染 病 北岡和見 予研ウイルス・リックチア研究部長
- 4 薬学・毒物学 柴田承二 東大(薬)教授
- 5 家族計画 小児病 村松 稔 国立公衆衛生院

IX部門(社会)

- 1 社会科学 福武 直 東大(文)教授

X部門(人類)

- 1 形質人類学 新井正治 慈恵医大名誉教授
- 2 民 族 学 石田英一郎 東北大(文)教授
- 3 民俗学 民族音楽学 岸辺成雄 東大(教養)教授
- 4 先史文化 考古学 八幡一郎 東京教育大(文)教授
- 5 言 語 学 泉井久之助 京大(文)教授

5) 開 会 式

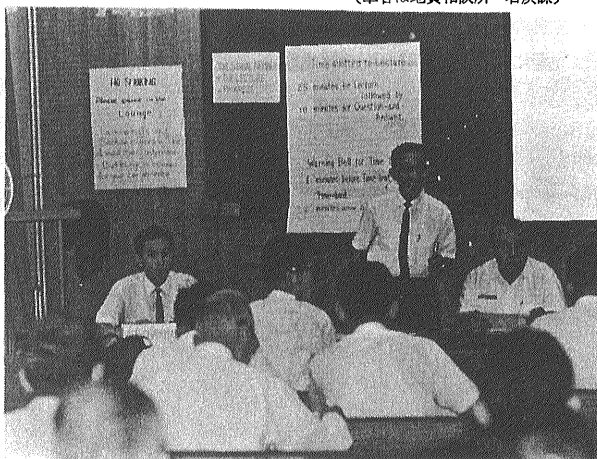
開会式は日本武道館において8月22日(月)午前9時から外国人約1,500名 日本人約4,000名の集まったなかに Patron 皇太子殿下 同妃両殿下をお迎えして 国際色豊かにはなやかに始まりました。

式 次 第

- 開 会 午前9時
- 琴 演奏(六段委曲).....東京芸術大学
- 総務幹事の会長紹介
- 会長の開会宣言および歓迎あいさつ
- 皇太子殿下おことば
- 総務長官あいさつ
- 日本学士院長あいさつ
- 東京都知事あいさつ
- 東京大学長あいさつ
- 評議員代表(インドネシア カナダ フランス)あいさつ
- グレゴリーメダル授与および受賞者あいさつ
- 畑井メダル授与および受賞者あいさつ
- 名誉終身会員の紹介および代表あいさつ
- 郵政大臣から会長に記念郵便切手贈呈
- 総務幹事事務報告
- 閉 会 午前11時

式は終始なごやかに行なわれ いずれもこの大会の意義をたたえ とくに今回が 古今未曾有の大きなものであることを改めて認識した次第でした。

(筆者は地質相談所・石炭課)



講 演 会 場